

景況レポート

(11月分・情報連絡員80名)

各業種で悪化割合が増加し、 景況DI値は後退

【概況(全体)】

11月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが7.5%(前回調査5.0%)、「悪化」が48.8%(同43.8%)で、業界全体のDI値は-41.3となり、前月調査と比較し2.5ポイント下回った。

製造業、非製造業とも全国及び東北・北海道ブロックを下回ったことで、業界全体のDI値についても低調に推移した。

【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しているものの、食料品をはじめとした製造業の各業種及び建設業で悪化割合が増加したことが、全体の景況DI値を悪化させる要因となった。

10月の消費税増税後の悪化したDI水準が継続しており、景気の落ち込みを懸念する声も見られ、業種を問わず、人手不足の影響が大きくなってきている。また、働き方改革への対応、最低賃金引き上げを懸念する声も多い。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-41.3	-35.9	-39.0
製 造 業	-46.9	-40.2	-45.4
非製造業	-37.5	-32.6	-35.5

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り 10未満
 雨 10未満
 雷雨 30以下

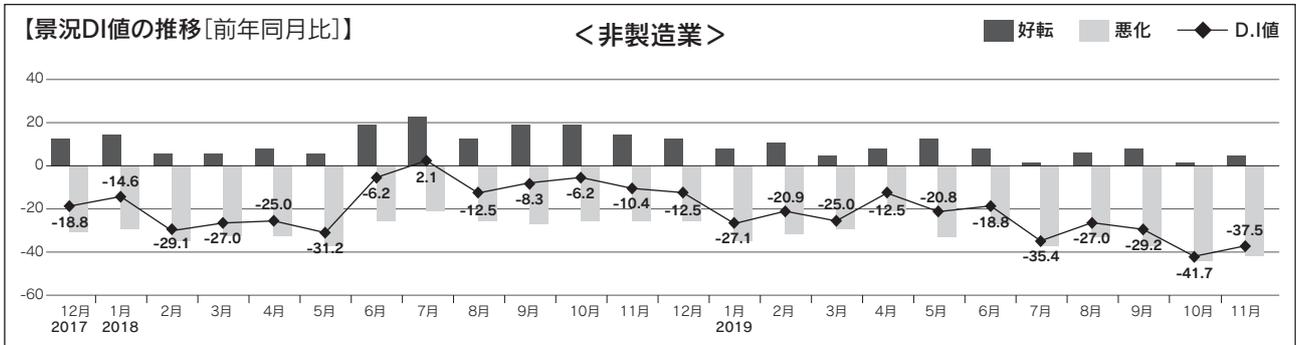
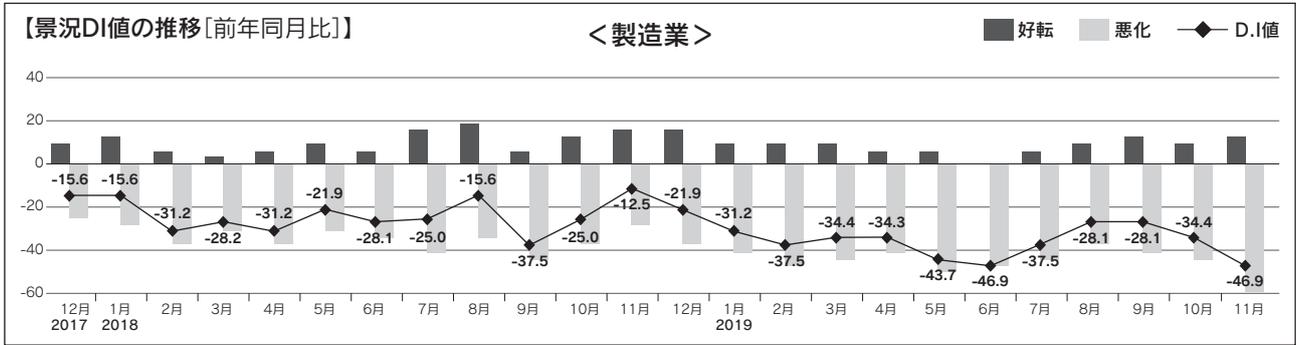
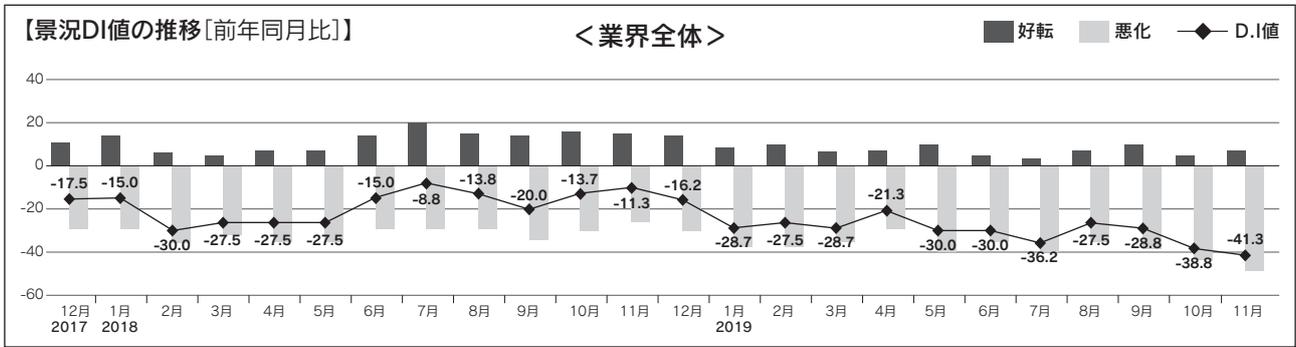
【天気図の見方】
前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	売上は昨年同月を下回った。取引先はより安価な商品を探しており、依然として競合が激しい状況にある。
食 料 品 (精穀・製粉)	売上の減少が続いている。消費税増税の影響による消費者の節約志向が一段と強くなりつつある。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	春物の原料が入り始めたが、例年同様、閑散期で受注は少ない状況にある。一部組合員企業では米国アパレルから直接受注しており、その企業は繁忙期となっている。
織 維 工 業 (織 維)	デザインが年々難しくなり、工程が増すこともあり工賃アップを交渉中であるが、あまり期待できない状況にある。定番品の受注は多少増えており、今後の売上に期待している。百貨店の売場面積の縮小、店舗閉鎖が続いており、今後のアパレル業界は非常に厳しい状況が予想される。
木 材 ・ 木 製 品 (一般製材)	受注、販売量は順調だが、販売価格の値下げにより収益面が好転しない状況にある。なお、中小製材工場の閉鎖、廃業により大型製材工場への発注が増加している。
木 材 ・ 木 製 品 (プレカット)	住宅着工数が若干落込み、大型案件の受注がなかったことで加工坪数は前年同月比では2割程度減少した。
印 刷	消費税増税に伴う需要の低迷によって受注量は回復していない。今後は、消費動向の回復が遅くなるほど、厳しさが増すものと予想される。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	11月の出荷数量は前年同月比92.6%である。4月～11月累計で93.6%となった。大館北秋地区、県南地区を除き、前年を下回っており、厳しい状況にある。また、人手不足の影響で工事の遅れも散見され、今後の影響が危惧される。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	物件が多く出回っており、各社100%以上の稼働で推移している。懸念されている鋼材、ハイテンションボルト等の不足は徐々に解消されつつあるが、入荷まで2～3ヵ月を要している。
そ の 他 (漆 器)	例年の11月は売上が落込み始める月であるが、昨年同月比で2倍の売上となった。商品展示ブースを工夫しアイテム数を増やしたことが売上増加につながった。一方、催事では高額商品の販売不振により出展する業者の売上減少が続いている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	鉄価格が1,500円/t値を上げた。前年同月との比較ではまだ10,000円/t安であり、仕入価格の交渉に努力が必要である。
卸売業 (青果)	売上高は前年同月比95.4%で推移した。野菜は産地が関東近郊に切り替わる中、夏から秋の大型台風の影響で、生産、値動きとも安定せず、売上は思いのほか伸びなかった。果物類に関しては、時期物のミカンが本格的に動き出すとともに早生・中生系のリンゴが比較的好調に推移し、野菜の低迷分をある程度カバーする動きを見せたが、結果的に前年実績を下回る状況となった。
小売業 (自動車)	11月の新車販売台数は、登録自動車1,750台(前年同月比86.6%)、軽自動車1,730台(同83.6%)、合計3,480台(同85.1%)と低調であった。
小売業 (クレジット)	キャッシュレス消費者還元制度対象店での利用件数は3倍増であったが、1件あたりの売上額は少額であった。売上金額の大きい店舗は対象外で、取扱高の数字が伸びなかった。
商店街	買い控えは感じられないが集客力不足もあり、売上は低迷している。(秋田市) 12月上旬に隣接商店街の老舗靴店が閉店するが、7月のスーパー閉店以降、人出が少なくなった。12月から街区内の空き店舗にオフィスが入居することになり、空き店舗率は隣接商店街との比較では低い状況にある。(湯沢市)
サービス業 (旅館)	売上、客数とも多少、漸減傾向にある。大規模な災害が発生すると観光復興支援による気運が高まるもののあまり影響はないようだ。
建設業 (管工事)	工事の実施件数が減少していることで、取扱資材の売上は前年同月比で20%減となった。
運輸業 (トラック)	前月比の売上、収益とも横ばいとなっているが、前年同月比では増加傾向である。燃料価格も値上がりし、今後も値上がりする予想である。12月は年末の繁忙期のため期待感がある。
その他 (砂利)	降雪期を迎え、仕上げ工事等で骨材の荷動きは活発だったものの昨年よりは落ち込んでいる。ダム関連骨材の出荷は順調に推移している。